

電話 03-5561-1111

七月二十二日（土）鳩山会館にて開催

理事会開催の様子

事

芳賀理事

・第一項 記念式典の開催

が必要との意見があり、議

仏印の首脳が広島平和記念

二〇二二年度OEJAB派遣第三陣 ・ 帰国報告その1

十二人で過ごしたウィーンの日々

派遣員全員が一致団結 友愛の思い開花

新型コロナウイルスの影響で、実施が延期になっていたOEJAB派遣が、やっと実現した。前回の第一陣に続き、三月十七日から二十六日の日程でOEJABを訪問した、第二陣の帰国報告をお届けします。五月号はその1として、派遣が延期になっていた二〇二二年度までの派遣員の報告を、七月号で、その2として、二〇二二年度派遣員の報告を掲載します（写真は一部割愛）。「友愛」のホームページには、先行して第二陣全員の報告と、写真も全て掲載しておりますので、是非ホームページにもアクセスしてください。表題下のQRコードからもご覧いただけます。（六月一日UP）



在オーストリア日本国大使館 水内龍太特命全権大使と記念撮影

ウィーンにある日本国大使館を訪問させていただきました。水内大使は、気さくに友愛派遣員とお話をしてくださり、全員大変感激しました。国際的なお話も沢山してくださり、皆強い刺激を受けたようです。写真前列左から奥山千波さん、田島桃子さん、藤田脩椰さん、小倉佑太さん、水内龍太大使、佐野祥子さん、堆美優さん、龍舞香さん 後列／OEJABのニコラスさん、弟子丸香歩さん、北島貴央さん、OEJABのデトリッヒさん、田内和久ラザルスさん、ニケライベッヘナーゼさん、女鹿笑奈さん

全員分一挙掲載
写真も全て掲載
友愛HPを是非！

yuai-love.com

オーストリア派遣を

終えて感じたこと

奥山 千波

振り返ると、派遣員として過ごした日々は本当にあつという間でしたが、密度の濃い毎日でした。約一週間でOEJABが運営する職業訓練学校をはじめ、在オーストリア日本大使館、高齢者施設、国連機関等に訪問させていただきまし

た。

応募時に参加動機として挙げた「難民問題の認識が低い日本が今後進むべき道についても視座を深めること、研修で出会う方々と交流や議論を通して知見を広げながら自分の視野も広げること」という視点から、本研修での気づきを綴りたいと思います。

前者について、諸外国と比べ、難民の認定数・率ともに極端に低いと言われている日本ですが、研修を通して難民認定後の支援方法

ザルツブルグの高台からの展望と景色と共に

二〇二二年度派遣員 奥山千波



在オーストリア日本大使館の外観

二〇二二年度派遣員 奥山千波



についても考えさせられました。

修で訪れた難民支援施設や職業訓練学校では、オーストリアで職に就き生活していくための様々なプログラムや経済的な支援が充実しているように感じまし

た。ただ、それらをそのまま日本に導入すれば良いという簡単な話でもありません。オーストリアの福祉・社会保障が充実している一つの要因として高額な税制が定着しているからであり、二国間を一面のみで比較するのは難しく、多角的

にかつ俯瞰的に全体を見る必要性を感じました。

後者については、まさにバックグラウンドが異なる仲間と出会うのはこのような機会の醍醐味だと再認識しました。大学や学年

の垣根を超えた関係だからこそ、自分にはない他分野の話を聞いたり、将来の進路に触れたりするのはとても刺激的でした。

様々な社会問題は座学だけでは限界があると感じており、難民問題に限らず、

これからの実際に現地へ赴き最前線の情報や現状を知ることが重要視していきたいです。最後となりましたが、改めて貴重な機会を与えてくださった友愛の皆様、現地でお世話になったOEJABの皆様により感謝申し上げます。



クーデンホーフ・（青山）光子さんのお墓。お墓にも日本と違う文化を感じました

二〇二二年度派遣員 奥山千波

社会との接点・

居場所を持つ意味

田島 桃子

「社会の一員であり続けるためのサポート」と「長期的観点に基づく未来への投資」。

エヤップの事業への取り組みとオーストリア政府の難民政策から、この二つの理念が掲げられていることを感じ、強く印象に残っています。

エヤップのプログラムは、職業訓練や高齢者施設、難民事業等、多岐にわたりますが、私はどの事業にも通底するのは「社会の一員であり続けるためのサポート」であると捉えました。具体的には、社会との接点を持つ手段としてのスキルや言語教育だけでなく、その過程で個にならなような居場所・コミュニティを提供しているということです。一例として、

青少年教育は、様々な理由で学校に行けなくなった子どもたちが行き場を無くすことなく、再び社会に復帰するために仲間と共に社

会生活を持續できる場として機能していました。難民政策に関しても、社会の一員として受け入れ、働いてもらうことで「脅威ではなく、国の将来にとって益になる」という国の未来を見据えた発想のもと成り立っ

ており、人間は一人では生きていけないからこそ、人と人、社会を繋ぎ、その関係性を持続させるための取り組み・支援が持つ影響力をひしひしと感じました。

エヤップ創始者の方は、活動を始めるにあたり「予算よりも常に理想が先にあった」そうです。まさに本派遣は、社会課題に取り組むエヤップの方々の熱意と、そこで懸命に生きる人々の姿に感化され、でき

エヤップの各拠点を示すフラッグ。滞在中ずっと多くの拠点で多岐にわたるプログラムを実施している規模の大きさと支援体制に感銘を受けていました

二〇二〇年度派遣員 田島桃子



念願の海外での電動スクーター！ 自由時間に借り、ウィーン市内を探索。昼間から人々が楽しそうに談笑する美しい公園や路地を抜け、ウィーン

を肌で感じました 二〇二〇年度派遣員 田島桃子



まるで修学旅行生を引率する先生のように、十二人も大人数の我々を丁寧に案内、サポートしてくれたニック（中央）には感謝しかありません。ふとした質問にも何でも答えてくれて、ニックのおかげでオーストリアという国を深く知ることが出来ました。二〇二〇年度派遣員 田島桃子



る・できないの実現可能性ではなく、自分の思い・問題意識に正直でありたいと再認識させられるものでした。そして、志を同じくする他者との信頼関係がエヤップの事業を発展させてきたという歴史に、実現への道のりは思いと他者との関係性を堅持していれば、おのずと拓けていくものではないか、とも思えたのです。この気付きは帰国後の私の行動に大きな変化を与えてくれています。

話から、社会に溶け込めるよう支援する動きもまた活発なのだと学びました。そこでは、オーストリア社会で自立して生きていくべききめ細かい教育が提供されていきました。住環境をはじめに、ドイツ語はもちろん美術・ITなどといった多様な科目が用意され、バックグラウンドの異なる生徒一人一人の希望進路に合わせたコーチング制度もあります。今や人口の二五％が外国にバックグラウンドを持つオーストリアですが、良好な治安の根底にはこんな教育支援活動があるのだと知り大変勉強になりました。

もう一つは国連ウィーン事務局でのCTBTTOの方々からのお話です。ご登壇くださった三名のお話の中で感じたこと・学んだことは、世界で何かの合意を取る難しさ、それを目指して尽力することの尊さです。CTBTTOは計三三〇箇所以上の計測装置を全世界に配置し、核実験の有無を監視しています。しかし、核実験実施など疑わしい兆候があったとしても、CTBTTOには法的拘束力がないことや各国の政治的事情、国連の組織としての予算の都合など、非

常に現実的な側面とも向き合っていることを教えていただきました。一社会人として納得するとともに、それでもCTBT発効の先にある核廃絶実現という公益に向けて世界中の専門家が膝を突き合わせて日々尽力されていることが、とても尊く映りました。この光景と感情を決して忘れてはいけなことも強く感じました。

最後に、延期になっても素晴らしい機会とプログラムをアレンジくださった友愛事務局の皆様、現地を案内してくれたニックたち、そして共に過ごした十一人の仲間に感謝します。

ヤップの運営する難民施設や老人福祉施設です。どちらも国やEUの補助金で成り立っており、利用者はほぼ無料で利用できるのですが、日本では考えられないほどの設備やサービスを整えている施設ですが福祉国家と呼ばれる国だと実感しました。具体的には、難民施設では生徒一人一人にコーチングをつけることができるシステムがあったり、職業訓練はいくつものコースから自分の好きな分野を選んで授業を取り、就職までサポートしてくれたります。老人ホームでは日本の高級な老人ホームと同じくらい綺麗で広い部屋と豪華な食事、細やかなり

ハビリテーションを受けることができます。日本もこうなったらいいのにな、と思う一方でこのようなサービスの背景には重い税制や老人にお金をたくさん使うことへの批判などもあり、良い面ばかりではないということも実感しました。

持続可能で理想的な福祉を整備するには国の力だけでは不十分で、エヤップのようなNPO法人や一般企業の参画は必要不可欠であると思います。日本でも友愛の精神を広め、エヤップのような組織がたくさん出て来よう私も尽力していきたいと思っています。この度はこのような機会をいただきました。ありがとうございます。

言い古された言葉「百聞は一見に如かず」

小倉 佑太

訪問先での経験

今回は政府関連施設からエヤップの難民支援施設、BPIなどの教育現場と外国人職業訓練施設などを訪問しました。中でも印象に残っているのはBPIとCTBTTOの訪問でした。

まず私がこの派遣事業に応募したときに最も関心を寄せていたのは難民支援施設への訪問です。日本では難民に対する理解が進んでいないことが現状ですが、私は難民という言葉を受けて苦しい環境下で生き抜いているという印象を受けていました。確かにそうした環境下で困難を強いられ、いる難民が多いのも現実だと思いましたが、私が訪問したBPIや難民施設ではこの限りではありませんでした。私たちが日本で受けているのと同等の教育を受け、衛生環境の整えられた住居があり、普段通りの食事が用意されているという環境で、他国からこの国にたどり着いた子どもや大人も、そして現地のオーストリア人も皆が同じように生活し、当たり前のように暮らしを享受しています。その様子を見て、私はこれまででの自らの既成概念を壊され

たような感覚を受けました。

「百聞は一見に如かず」という言葉のごとく、今回の派遣が私に与えてくれたものはこうした思い込みを解くためのブレイクスルーであったと感じています。

またCTBTTOでは職員の方々と核に対する議論を交わし日本としての立場と世界に求める対応について意見交換を行いました。また世界交渉の場である国連常会を視察し、世界の舞台で活躍する日本人や世界各国の要人の方々の姿を拝見して、強い羨望の念が心の底から湧き上がりました。私もこうした世界の舞台で活躍できるような人間になりたいと改めて強く思い、今回の訪問を通して学んだことを糧に今後の勉学に活かしていきたいと感じました。



ウィーンにある国連の事務所の前で、ちよつときどつてパチリ！
二〇二一年派遣員 北島貴央

二〇二〇年度派遣生として選抜していただきました龍 舞香です。パンデミックが落ち着き、二〇二三年の三月によく派遣が実現したことを大変嬉しく思うと共に、派遣実現に向けて尽力してくださった羽中田事務局長、西川理事を始めとする友愛の方々やニックを始めとするエヤップの方々に心より御礼申し上げます。



難民施設の食堂で隣に座ってお話をさせて頂いた施設の方。日本の文化が好きな様で、「侍」のTシャツを
二〇二〇年度派遣員 龍 舞香

二〇二〇年度派遣生としての思い出
今回の派遣は二〇二〇、二〇二一年度派遣生が同時に派遣されることとなり、過去最多数での派遣となりました。どのメンバーも個性豊かで志が高く、私にとってはそんな彼らとの

CTBTTOの方からお話を伺っています。凄い装置に圧倒されました
二〇二一年派遣員 北島貴央



移動中の地下鉄で。今回の研修で人に恵まれたのは言うまでもない
二〇二一年派遣員 北島貴央



異例の大人数十二人での派遣で、年齢もバックグラウンドもさまざまでしたが、総団長の小倉くんの指揮のもと一致団結し、お互いの友愛の精神を発揮して、充実した八日間を過ごすことができました。派遣プログラムの中で特に印象に残っているのはエ



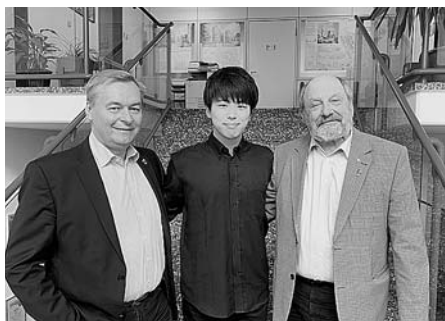
OEJABの事務所の前で。シュスラー前会長（中央）から歴史や活動についてお話を伺いました
二〇二〇年度派遣員 龍 舞香



OEJABが運営する老人ホームにて。ノーマスクが主流でしたが流石に福祉施設では着用義務が
二〇二〇年度派遣員 龍 舞香



美術史美術館にて—今回の派遣員は男性が少数派（四名）全員でポーズをとって撮影
二〇二〇年度派遣員 小倉佑太



OEJAB本部で。フレリッヒ事務理事（写真左）とベルコビッチ会長（写真右）
二〇二〇年度派遣員 小倉佑太



写真でしか見たことの無かった景色―国連常会の会場―。大いに刺激されました
二〇二〇年度派遣員 小倉佑太

日々が何よりもの思い出となつていきます。訪問先ではそれぞれの強みを生かして質問をし、意見交換や改善策の提案を行うなど非常に有意義な経験を積むことが出来ました。寮でのトラブルや現地の方々とのインタラクティブにも一致団結して取り組み、積極的な対話と交流を行いました。

そうした緊張もほぐけ、一人の派遣員としてこの旅を全神経で楽しむことができるとなっていました。仲間の派遣生全員に感謝の意を表するとともに今後とも意欲に溢れたメンバーとの繋がりを大切に、相互理解・相互尊重・相互扶助のもとで友愛の精神を育んでいきたいと思っています。

最後に今回の派遣に際してご尽力いただきました友愛理事の皆様、事務局の方々に厚く御礼を申し上げて結びとさせていただきます。

社会を創る

「人」を大切に

佐野 翔子

オーストリアでの一週間は、私に新たな視点を与えてくれました。特に、印象に残った二点を取り上げたいと思います。

一つ目は、OEJABの教育プログラムが実践的で、生徒一人ひとりにフォーカスしたものであったことです。OEJABの教育施設BPIでは、四つの軸

施設の生徒それぞれの想いが形になった作品たち。壁一面に個性豊かな作品が並んでいて迫力がある

二〇二二年度派遣員 佐野翔子



オーストリアで有名な「スタンド・ソーセージ」。結構な大きさを手にご機嫌

二〇二二年度派遣員 佐野翔子



街の中心にあるステファン大聖堂。外観も素場らしい一言に尽きるが、内部は更に圧倒される
二〇二二年度派遣員 佐野翔子

に基づいたカリキュラムが組まれており、知識に留まらず、心身も含めた社会で生きるためのエッセンスが詰まっていた。私自身がコーチングを学び、提供する経験を通じて、心身の健康が幸福度や個人の成長に繋がることを実感してき

本なりのアプローチを創出する必要も強く感じました。社会通念や資金繰りの仕組みなど、何が根本的な課題であり、そのために何をすべきか、行動に繋がる問いを持ち帰ることができたと思います。

最後に、普段とは異なる社会を垣間見た旅ではありましたが、結局はどんな社会も形づくるのは人であり、人を大切にするからこそ良い社会に繋がることが再認識しました。この想いを、目の前でできることから実践し、自分が創り出す未来がより良いものとなるよう努力していきたいと思っています。この貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

公益財団法人

友愛創立 70 周年記念式典 7 月 22 日(土) 鳩山会館にて開催

1953 年「友愛青年同志会」としてスタートした公益財団法人友愛は、2023 年 4 月 29 日創立 70 周年を迎えることができました。ご協力をお寄せくださる皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

下記要領で、記念式典を開催いたします。皆様方のご参加をお待ちいたしております。

機関紙『友愛』5 月号に同封の「参加申込書」にご記入の上、友愛事務局までご返送ください（切手不要）相互尊重・相互理解・相互扶助の旗印のもと、これからの友愛を語り合ひましょう。

10:00～開場・受付開始／11:00～記念式典開式／12:00～記念写真撮影／12:30～懇親会（軽食）

記念式典は庭園で行います。記念撮影終了後、館内に移動、懇親会となります

会費：10,000 円／人 同伴者：5,000 円／人 （会費は寄付金として取り扱わせていただきます）

雨天決行・鳩山会館へのアクセスは鳩山会館 HP をご覧ください

* ご不明な点は、お気軽に事務局までお問い合わせください。Tel 03-5684-3188

公益財団法人 友愛 会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆様のご支援・ご理解のもとで活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。

* 申込みはHPからも * お問合せは事務局まで 電話03-5684-3188

友愛の年会費は、確定申告の折り税額控除の対象となります。友愛の活動はHPをご覧ください！ URL:yuai-love.com

編集後記

◆ 過日TVで山椒の若芽の佃煮が、ある地方の名産として紹介されていました。作り手のおばあちゃん曰く、籠一杯取つてきても焚くとホンの一握りになっちゃうんだよ。そう、籠を背負つて山を一日歩き回り、山椒の棘で手を傷だらけにして、籠に溢れる程に取つてきても、出来上がりはシュン。だけどこのビクリ感と代える物が無いあの美味しさは、体験した者にしか解らない初夏の思い出。祖母と一緒にはイタドリを噛りながら歩いた山々。山椒の木の子成地を良く知っていた祖父、最高の佃煮を焚いてくれた祖母。大事な大事な私の思い出です。（も）